

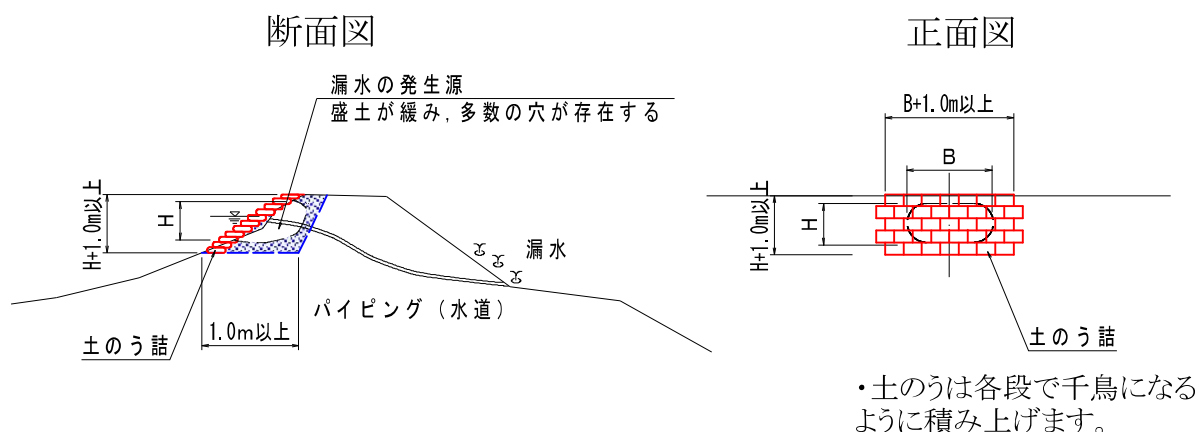
【事例5】 土のうによる簡易的な漏水防止対策

1) 現地調査及び対策工法

漏水調査は、漏水箇所やパイピングホール等の痕跡を探し、先の尖った鉄筋(径10mm、長さ1.0m程度)等を使って堤体に貫入させ、堤体が緩んでいる箇所を調査します。漏水防止対策範囲はその場所を中心に0.5～1.0m程度余裕を取って範囲を決定します。

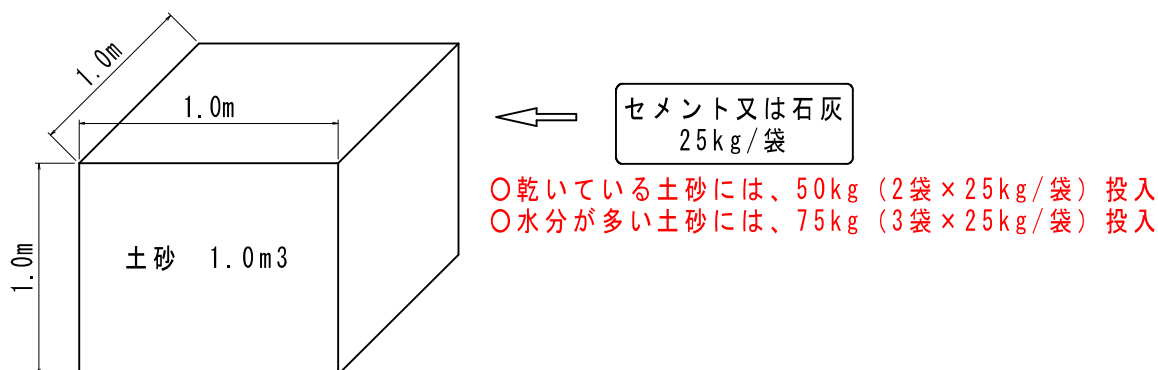
整備工法は、一般的な”土のう”による工法を採用します。詳細については下図の通りです。尚、本工法は小規模の漏水範囲で、堤体からの漏水だけではなく、構造物廻りからの漏水に対しても対応出来ます。

標準断面図



- ・土のう用土は出来る限り旧堤と同様な粘性土の新鮮な土を使用します。
- ・土のう用土には水に溶けるような土(シルト質土砂)は使用しません。
- ・掘削土を使用する場合は締固めが効く良好な土砂以外はセメント又は生石灰等を混ぜて使用します。

注意: セメントを使用する場合は六価クロム溶出試験(8,000円/試料)をする必要があります。



2) 購入材料

- ・土のう袋 48×62cm 20円/袋
- ・高炉セメント 500円/25kg・袋程度
- ・生石灰 750円/25kg・袋程度

補修表面積1.0m²(1.0m×1.0m) 当たりの数量及び金額

材料	規格	数量	単位	単価	金額	備考
土のう袋	48×62cm	17	袋	30	510	
詰土量		0.34	m ³	—	—	堤体土を流用
高炉セメント	25kg/袋	3	袋	500	1,500	水分が多い土砂
計					2,010	

注: 表記している単価は、H22年度の標準的な単価です。

3) 施工方法

- ・池内水は出来る限り早い時期に落とします。
- ・掘削は周辺に影響が出ないように慎重に掘り下げます。
- ・掘削土及び池内堆積土を再利用する場合は葉っぱや枝等有機物が混入しないように注意します。
- ・再利用する土は出来る限り乾かして使用します。
- ・再利用土にセメント等を混ぜる場合は“ダマ”が出来ないように確実に混ぜます。
- ・締め固めは、まき出し厚10cm程度でタコ、又は、タンパで入念に締め固めます。
- ・土のうは、隙間なく確実に詰めます。

4) 完成写真



土のうによる漏水防止対策